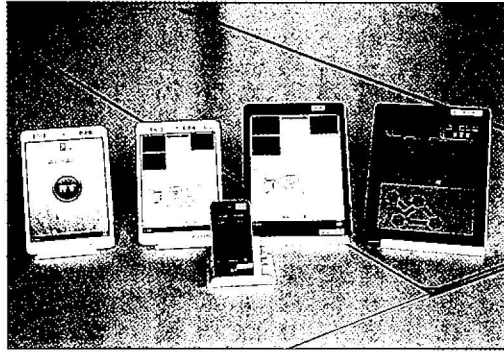


福祉ジャパン

「ケアパネルシステム」開発 在宅看護・介護関係者をつなぐ



護者・医師・看護師・訪問ヘルパーらの間でお互いの顔を見ながら連絡や医療相談ができる。顔の見えるナースコール。最適で迅速な医療・介護サービスの提供を可能にする。

例えば在宅医療に携わる病院の担当医師の場合、看護ステーションや薬局とネットワークでつなぐことで、情報の共有やリアルタイムな状況把握ができる。かかりつけ医による訪問診療も、遠隔診療によつて効率化。また退院した重病患者のサポート・アフターケアや、出産後のママへの育児指導にも利用できる。

そのほか、介護施設では居室からヘルパーのコールボタンとして、病室では緊急ナースコールとして活用でき、三者同時通話も可能。「顔を見ながら話ができるので、相手の様子がよく分かる。見守りが必要な場合にも活用してもらえれば」と山田社長。

ケアパネルシステムはiPad・iPhone・iPad touchを使った最新の遠隔在宅介護・在宅医療支援ツール。同社と愛知県のスistem会社が共同で開発した。在宅医療患者・要介

料金は利用台数など

によつて変動するが、一〇台で約三〇〇万円となっている。山田社長は「ケアパネルシステムは、当社の福祉ポータルサイト「ケアパネル備後」とも連動しており、さまざまな情報が得られる。料金など詳細については問い合わせ」と話している。

5010

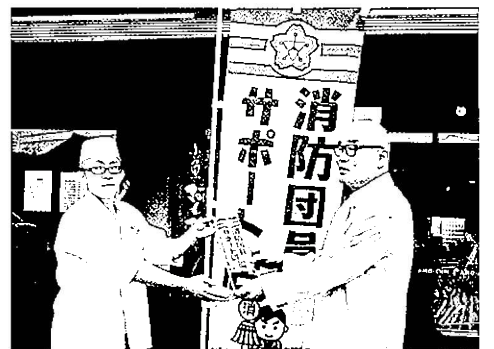
問 084・959・

福山北商工会 消防団サポート事業スタート 「阿も珍駅家店」で発足式



延近団長

福山北商工会（福山市駅家町倉光四一七、甲斐敬文会長）は、9月1日、(株)阿も珍味（同市、阿も珍町後地一五六七一、阿も珍盛之社長）が運



甲斐会長(右)と増淵店長

営する「小魚阿も珍駅家店」（同市駅家町、増淵勉店長）で「福山北商工会消防団サポート事業発足式」を開いた。同市消防団をはじめ、関係者など約二〇人が参加した。同事業では、登録した飲食店が約二八〇〇人の団員を対象に割引サービスなどを提供する。団員証を提示すれば、料金の引きやドリンクサービスなどを行う。小魚阿も珍駅家店は、同商工会が募集したサポート店の登録第一号店。現在二〇店が登録しており、五〇店まで増やす計画。

はじめに甲斐会長が「市民の安心・安全のために昼夜を問わず職務を全うしている消防団員の皆さんに感謝したい。これからサポート店を増やしていく」とあいさつ。

続いて福山市消防団の延近敬弘団長が「地域の皆さんに消防団の活動を理解してもらえるチャンス。サポート店の利用率のアップと、地域防災力の向上を願う」と話した。増淵店長は「少しでも消防団の皆さんのお役に立てれば」と意気込んでいた。

最後に甲斐会長から増淵店長へ「消防団員サポート店」の文字が入ったのぼりが手渡された。同商工会は「今は当商工会の単独事業だが、市内のほかの商工会にも声を掛けて全市的な活動にしていこう。引き続き協力してくださるサポート店を増やし、新規客の掘り起こしにもつながりたい」としている。

問 084・976・3111

発足式の様子

